

9月7日(水) 本年度第9回(通算2601回) 12時30分～ 釧路プリンスホテル

『坂本新世代育成基金支援』

担当/新世代委員会

☆お客様と来訪ロータリアン

☆メイクアップ

8月5日	松原久幸君	(RI2500地区第7.8会)
8月5日	田中和紀君	(釧路西RC)
8月25日	能登信孝君、田中和紀君、小山義雄君、岡田拓君、三宅弘泰君、田村憲一郎君平澤利秀君	(釧路RC)
8月26日 } 8月28日	能登信孝君、田中和紀君、小松亮次君 坂入信行君、本間明美さん	(ライラセミナー)
8月26日	北川健二君	(釧路南RC)
9月6日	田中和紀君	(釧路東RC)

☆出席報告【会員総数65名 免除11名 出席計算に用いた会員数65名】

本日の出席者37名 メークアップ6名 合計43名 出席率66%

☆ニコニコ献金 (今年度累計 202,000円)

- ・三原さん今日はよろしくお願ひします
- ・結婚を記念して
- ・今日も元気です
- ・やっと雨が上がりました
- ・皆様、台湾宜しくお願ひします

能登信孝君、田中和紀君
中嶋嘉昭君
布目九一君
大友 淳君
三宅弘泰君

☆会長挨拶
《能登会長》



今月は新世代のための月間となっております。新世代に関わるプログラムとしては、インターアクトクラブ、ローターアクトクラブ、先日行われたライラセミナー、国際青少年交換などがあります。

今日のプログラムは、坂本新世代育成基金支援となっております。坂本新世代育成基金は坂本ガバナー一年度の1997年2月に開催された「新世代と語るシンポジウム」の結果、釧路北ロータリークラブが市内の青少年団体のボランティア活動や行事を支援し、各団体が協力しあい、街づくりばかりでなく、人間の成長を遂げるためのネットワークづくりの要とならなければならない、という坂本パストガバナーの熱い思いをもとに設立されました。基金はニコニコ等会員皆さんの寄付ですので、支援団体が有効に使っているかどうかのチェックも必要かと思ひます。

☆幹事報告
《田中幹事》



- ①各クラブの会報と9月の例会プログラムの案内を回覧させていただきます。
- ②「ロータリーの友」事務所より年1回発行の「ロータリーの友」英語版が11月中旬発行予定との連絡がきております。必要な方は幹事まで連絡下さい。
- ③「第10回ロータリー全国囲碁大会」の案内が届いております。
- ④ガバナー事務所より「バギオだより」が届いております。回覧致します。
- ⑤ロータリー財団より「税制上の優遇措置に伴う寄付者確認のお願い」ということで領収書発行の際に財団はそのまゝの名前で発行しますが後々領収書の名称変更の申し入れがあったりするそうです。領収書の再発行は原則できませんので予めのご確認をお願いしたいということです。



☆三原克也パスト会長

みなさんこんにちは。9月は「新世代のための月間」です。そして今日は「坂本新世代育成基金」についての例会でございます。この基金につきまし活動計画書の22ページの「坂本新世代育成基金規約」をご覧いただければ、概要がご理解いただけると思いますが、今日はそのコピーを持ってまいりましたので、目を通していただきたいと思っております。規約冒頭に「この基金は、1996-97年度に当クラブの坂本一会員がガバナーに就任し、その職責を全うされたことを記念し、さらにはガバナー年度に実施された「新世代会議」の成果を基に創設された。その趣旨はクラブ会員の浄財を原資として、外部寄付者の支援も仰ぎながら、ロータリーと地域社会が手を結ぶための奉仕の理念を目指す事業の一躍として、次代を担う新世代の健全育成を支援・褒賞するものである」と謳っております。

坂本ガバナーが誕生したのは、今からちょうど15年前のことですが、わたくしも入会して1~2年経ったばかりでございまして、ロータリーの詳しいことは解らないまま、坂本ガバナー年度の地区協議会や地区大会など、大きな行事のお手伝いをさせていただいておりました。そんな訳で、「坂本新世代育成基金」が出来た経緯なども、先輩からお聞きして理解していることが多く、これからお話することも、聞きかじりのお話であることをまづもってお断りしておきます。

15年前、坂本ガバナーが誕生した時のRI会長は、アルゼンチンのルイス・ジアイさんという方でした、ジアイ会長は、ロータリーがもっと青少年問題に積極的に取り組むよう提唱された方でした。この年度から、それまで「青少年活動月間」と呼んでいた名称が、「新世代のための月間」と変わり、手続き要覧の「青少年活動」の項目も、すべて「新世代」と呼ぶようになりました。それまでの青少年の対象は14歳から30歳まででしたが、この年度より0歳児から30歳までと範囲が広がりました。

また、ジアイ会長は、この年度で次代を担う青少年たちと、ロータリアンが膝を交えて語り合う「新世代会議」の開催を世界各地のクラブに呼びかけられました。釧路地域でも坂本ガバナーを送り出している責任上、北クラブが音頭をとって「新世代会議」を開催することとなりました。そこで実行委員会を組織し、「明日の釧路を語る新世代会議」のタイトルのもと、釧路市内のホテルを借りてシンポジウムを開催することになりました。各青少年団体に呼び掛けをして、2月3日の開催にこぎつけ市内の17の青少年団体約400人、ロータリアンを含めると500人が参加するシンポジウムとなりました。基調講演は当時北クラブのメンバーでもあった釧路公立大学の荒又学長にお願いし、ディスカッションは当時の綿貫釧路市長にも参加いただき、パネラーの青年団体代表や、会場の青年達と活発な意見交換が行われました。それまでロータリーの活動が新聞記事になることはあまりなかったのですが、このシンポジウムは、翌朝の釧路新聞の一面を飾る大きなニュースとなり、市民に大きな反響を呼んだことを記憶しております。このシンポジウムで出された意見の中に、「自分達は手弁当でいろいろなボランティア活動をしているが、市の補助もなければ資金もない」、また、「ロータリーは経済人が集まった奉仕団体というが、地域に対する具体的な奉仕活動は何をやっているのかよくわからない」といった意見、そして、「ぜひ青年達のボランティア活動を資金的に応援してもらえないだろうか」といった、切実な提言がありました。

その後、実行委員会で、クラブに青年団体の活動を支援する基金をつくらうという話が持ちあがり、ある飲み会の席で、坂本ガバナーに個人で100万円を出してほしいと持ちかけたところ、その場でOKをいただいたということで、早々基金プランを実行委員会で練ることになりました。

そして出来上がったプランがお手元にある「坂本新世代育成基金」であります。その後、高橋邦弘会長年度で内容の主要部分の修正がありましたが、基本的骨子は変わることなく現在に至っております。

ここで基金の内容を若干ご説明いたしますと、坂本ガバナーから出していただいた100万円のお金はあるものの、使えばなくなるわけで、基金というからには原資となる基金をどのようにするのが、一番問題となります。支援褒賞する団体は3団体以内、金額は1団体10万円前後と決めていましたので、どんなことがあっても年間30万円は確保しなければなりません。何千万単位の基金が蓄積されているのであれば、その運用益で賄うということも考えられるのですが、現実問題としてそれは不可能です。そこで考えだされたのが、皆さんが毎例会いろいろな理由をつけてポケットマネーを寄付するニコニコ献金から、年間、最低でも20万円以上を新世代基金に振り向けようということでありました。ご存知のように、ニコニコ献金は年間80万円~100万円程集まり

ますので、その中から20万～30万円を新世代基金に回すことは可能です。ついながらニコニコ献金について話しますと、足立障がい者スポーツ基金にも最低20万円をニコニコ献金から拠出することになっていきますので、ニコニコ献金の半分は新世代育成基金と障がい者スポーツ基金に回ることになっております。余ったお金は、一般会計の雑収入に繰り入れることになっていきますので、会員の皆さんには今後とも大いにご協力いただくことをお願いいたします。

このように、ニコニコ献金から20万～30万円を新世代基金に回すと、基金事業の継続はぎりぎり可能なわけですが、ご存知のように数年に一度、R Iや地区から特別事業を要請されたり、アクトの大きな臨時事業が発生したりします。例えば、足立会長年度では、ロータリー100周年事業として、生涯学習センター大ホールで、小・中学生約800名を集めて、いじめ問題を扱った「ハードル」の映画上映会を行いました。穂積年度では地区ライラのホストを引き受け、厚岸の青年の家で、2泊3日のイベントを開催いたしました。村井年度では50周年事業としてポリオに100万円と米山に50万円の特別寄付を新世代から拠出しました。昨年の私、三原年度では、ローターアクト40周年の事業支援として50万円を新世代から拠出しています。仮にこれらの費用を開催年度の会費で賄うとすれば、一人当たり数万円の負担金を別途徴収することになりますが、坂本新世代基金があるおかげで、何ら苦勞することなくやりくりがついているというわけです。

このように、大きな事業を実施する時も、坂本新世代基金のお世話になっているわけですが、それにはニコニコ献金から回す資金だけでは賄いきれるものではありません。そこで考え出されたのが、ロータリー財団の認証ポイントを利用した北クラブ独自の基金システムであります。ご存知のように、ロータリー財団に正味1000ドルの一般寄付を行うとポールハリスフェローの称号とバッジが授与され、同時に同額のボーナスポイントがつくことになっております。ちょうど1000円の買い物をすると1000円のプレミアムがつくポイントシステムと似ております。ただし、財団のポイントは第三者に譲渡できますが、自分では使えないという決まりがあります。例えば、私が1000ドルを財団に寄付すると、財団からポールハリスフェローの称号とそれを証明するルービーのついたバッジが贈られ、更に1000ポイントのポイントボーナスが付いてきます。このポイントは自分では使えないので、仮に能登会長と田中幹事にそれぞれ500ポイントを譲渡したとしますと、能登会長は私からもらった500ポイントと能登会長自身が500ドルの現金を出して財団に申請すると、1000ドルの寄付を行ったものとみなして、ポールハリスフェローの称号がもらえることとなります。田中幹事も同じやり方でポールハリスフェローになることが出来ます。

ところが、ここで大きな食い違いが生じることとなります。正味1000ドル出した私と正味500ドルしか出さなかった能登会長が同じポールハリスフェローとして財団に登録されるという、ある意味では不公平な結果です。そこで我がクラブが考え出したのが、個々のポイントをクラブで管理し、ポイントを利用してポールハリスフェローになった方は、ポイント利用分をクラブに対する借金と考えて、その分に充当する金額を、後ほど新世代基金に充当寄付してもらうことで、財団に1000ドルを寄付した人と500ドルしか寄付しなかった人との不公平感を調整しよう、ということでありました。これは結果的にクラブにとっては、ポールハリスフェローの称号受賞者も増え、同時に新世代基金の充実も図れるという一石二鳥のスキームということになります。このように、ポイントを利用して財団のポールハリスフェローになった方は、1ドル100円の計算で、お金の余裕が出来たときに坂本新世代基金に充当寄付を行っていただいて調整を図っているという訳です。

その他、葬儀のお礼だとか、1万円以上のまとまった寄付があった場合は、理事会の承認で坂本新世代基金の寄付として組み入れております。ちなみに坂本先生からは亡くなるまでに総計263万円の寄付をいただき、奥様からは昨年も10万円の篤志寄付をいただいております。また、名誉会員の阿部先輩からは毎年10万円の篤志寄付が寄せられ、累計額は105万円になっております。更に、基金内容の詳細を申し上げますと、この基金は、坂本ガバナー年度の松田弘正会長の時発足し、翌年の新妻会長年度で支援事業がスタートしました。それから14年、昨年の三原年度までで、先ほど述べたクラブの特別事業への拠出を含め、45件、総支援金額は1047万円にも上がっております。収入の方では、ニコニコから振り向けられた金額が473万円、ポイント利用充填寄付と篤志寄付が1228万円、合計約1700万円。差し引きますと現在の基金残高は、610万円となりますので、仮に一銭の収入がなくとも、あと20年は青少年団体の褒賞・支援事業は続けられることとなります。更に、現在ポイント利用者の残高も120万円相当ありますので、毎年、基金支出額を少しでも上回る寄付収入を確保していただければ、この基金は永遠に継続可能ということになります。

そろそろ、話を締めさせていただきますが、それまでのロータリーの奉仕は、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕の4大奉仕部門と言われてきました。しかし、2010年の規定審議会でも、新世代奉仕部門が新たに加わり5大奉仕となりました。これは、R Iが今後、次の代を担う子供たちや若者たちの育成に、ことのほか力を注いでいこうという姿勢の現れであります。ロータ

リーが100周年を迎えた時のエステスR I会長は、「子供たちへの投資は、未来への投資」とメッセージを發しています。また、昨年度のクリンギンスミス会長は、「新世代奉仕部門の新設により、ロータリーの青少年プログラムの価値と、ロータリーの未来へのその貢献度がより一層高まる」と述べています。全国でも多分我が北クラブだけだと思いますが、先輩たちの尽力により、「新世代基金」を創設し、すでに、活発な奉仕活動を展開していることを大いに誇っていただいて、今後とも一層の力を入れていただくことをお願いし、「基金に関するスピーチ」とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。